

創建

そうこん

巻頭言／倉田光春・1
平成17年度卒業研究テーマ・3～4
平成16年度卒業研究受理者・4～5
韓国の国立全北大学校に滞在して・6
新任の先生・7
福島県費留学生・7
教室ニュース・7
教職員名簿・8

2004・7・10 VOL.39 NO.1 (通巻114号)

■ 日本大学・工学部・建築学教室 ■

諸君は、天才ではない。一度講義を聴いたからといって、その内容を理解できる訳はない。出来たら天才だ。予習、復習しなかったら、尚更である。「そういう事か!」と分かった気分になることは出来ても、理解し、使えるようになるのは至難の技である。時間と忍耐が必要だ。黒板の内容を写しもせず、メモもとらないなんて言語道断である。失礼である。恐らく、その者は悲しいくらいチンプンカンプンであろう。

「今日は、学生、少ないね!」

「平面図の提出で・・・!」

「時間、十分にあっただろう!」

「ウーン! 君たちは大変なのだ!」

「それでは、この問題を解いてみなさい」

「反力を計算し、応力を求めなさい」

「計算は図解しながら、結果は応力図として書きなさい」

「図、計算は、ゆっくり丁寧に!」

「わかりません!」

「ノート出してごらん! なに、書いてない」

「まず、写すこと! その繰返しだよ!」

「友達のノートを借りて、写しなさい」

「どれ! どれ! ウーン!」

「アッ! ちゃんーと写してないよ!」

「図、式には、意味があるのだ!」

「友達代えたら! 前の席、空いているぞ!」

「黒板もはっきり見え、ちゃんーとした友達もいるし、良いこと尽くめだぞ!」

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

「友達には、ちゃんーと、お礼をしなさい!」

「オイ! この図、可笑しくない! 図学、製図で習ったのだろう!」

「図学、製図でも、こんな図を画く

の?」

「いいえ、描きません!」

「私の授業を、軽く見ていないだろうね!」

「そんなことありません!」「どうして?」

「定規を使って画くのですか!」

「何いっているのだ!」

「フリーハンドでいいから、ゆっくり丁寧にわかるように書きなさい」

「私が後で観るのだから!」

「鑑賞に堪えるように! 失礼だろう!」

「恋人がみたら、一遍に冷めちゃうぞ!」

「それでも良い! ホントか!」

「なに、いない! 悲しくないかい!」

「自己研鑽」

倉田光春

身のまわりの自然は、移り変わり、繰り返す。自然は形と現象(動き)の存在だ。人間はそれを写し、再現し、そして自然を利用した。利用できる有用な知識を体系化したものが学問だ。簡単に言うと、図学は自然の形を写し再現する技、製図は創るための図法である。微積分学、代数学は、自然の現象を写し再現する技である。微分学は、自然の現象を写し、現象を微分方程式で表現する技である。積分学、代数学は、現象を再現・予測する技である。人間は、何千年と時間を掛けて自然を繰返し写し、磨いた技を型にまとめた。それが学問という技である。我々は、それを道具として便利に使えばよい。使えればよい。道具は繰返し使い、使えば術光り輝くものである。

「図学、製図、少しは学習したのだろう!」

「使いなさい! 道具だから!」

「使わなきゃ巧くならないよ!」

「道具は、路傍の石、でも磨けば君にとって大切なもの“カネ?”それとも“恋人?”、それで別世界が見えるかも! 試しに磨いてみなさい!」

立体である自然を平面に写すことから始まった図学は、人間の思考を平面に描き、それを創る図法となった。縮尺寸法、原寸、部分展開図その組合せなど、考えながらの図学は便利で楽しく、遊べる道具である。これが設計の「始めて終わり」の一步だ。

「設計をしたい!」

「やる気になった? 道具を磨くかい?」

「ウーン! それでは毎日、一枚でも良い、建てたい建物の絵、図面を描きなさい」

「続けるのだよ! 続けなきゃ!」

「なに! やってみる! でも、ただ画けば良いというものじゃないよ!」

「画き方があり、それは奥が深く、とても深い! 掘ってみるかい!」

「掘ってみる!」

「ウーン! 君は、穴を掘ってみたことがあるのかい! 狭くて深い穴を掘るのは難しい! 天才なら出来るかも!」

「深く掘ると周りが崩れてしまう!」

「エンヤコラ! 幅広く大きく掘らねばならないのだ! わかるかい! この意味!」

「崩れたら、繰返す地味な作業だよ!」

「それでも、やってみる!」

「明るくやってみる!」「そう!」

「工学部の学生だね!」

(主任教授)

平成17年度 卒業研究テーマ一覧

構造・材料系

■構 造

倉 田 光 春 教授〔論文〕

野 内 英 治 専任講師〔論文〕

1. 構造フォルムに関する研究

自然界の進化アルゴリズムによって出現するかたちとつよさの神秘さを自然観察あるいは、経験則に基づく感覚的・実験的構造学で考察し、コンピュータシミュレーションによる検証を行う。

2. 構造解析法に関する研究

各種構造物について、構造形態の最適化手法の開発や、弾塑性解析を行う。

3. 地盤・建物の地震時挙動に関する研究

振動応答解析法の開発あるいは、地震波入力による地盤および建物モデルの振動実験と地乗応答解析を行う。

4. 空間構造（シェル・立体構造）に関する研究

単層ラチスシェルの座屈実験と解析のための鋼管材の局部座屈に関する実験および解析を行う。

5. 構造材料に関する研究

コンクリートおよび鋼材に関する実験および解析を行う。

6. 建築における情報技術の利用に関する研究

7. その他

免振・制振構造に関する研究、海洋構造物の解析に関する研究など各自あるいは、グループの希望テーマを面接の上決定し、それに沿って研究を行う。

黒 田 浩 司 教授〔論文〕

1. 柱・はり接合部の挙動、耐力に関する研究

1) 高強度コンクリート及び高強度鉄筋を用いた接合部の実験・解析※

2) 鋼構造接合部の実験・解析

2. 耐震補強改修に関する研究

1) 炭素繊維シートを用いたはりの補強実験・解析※

2) その他の補強法・改修法についての研究

3. RC造及びBS造用耐震診断のプログラム化

4. その他、構造設計法に関する研究

※1. 1)、2. 1) はパリーク専任講師との共同研究

浅 里 和 茂 助教授〔論文〕

1 剛でない接合部をもつ鋼構造物の弾塑性解析

2 鋼構造建築物の耐震性に関する研究

3 鋼構造生産システムに関する研究

4 建築とITのかかわりに関する調査研究

5 アナログメディアのデジタル化に関する研究

千 葉 正 裕 助教授〔論文〕

1. 建物の近似振動解析法に関する研究

2. 情報研究棟およびその周辺地盤における地震動観測

3. 細長い平面形を有する建物の多点常時微動測定

4. 郡山市域の地盤および建物の振動性状に関する研究

5. 建物・杭・地盤連成振動系解析に関する研究

6. 各種構造解析プログラムの開発

パリーク サンジェイ 専任講師〔論文〕

1. 高強度コンクリート及び高強度鉄筋を用いた接合部の実験・解析※

2. 炭素繊維シートを用いたRCはりの耐震補強実験・解析※

3. 複合構造部材の研究・開発

4. 複合材料の力学的性状に関する研究

※1. 2. は黒田教授との共同研究

■材料工学・建築化学

大 濱 嘉 彦 教授〔論文〕

1. 有機物と無機物の複合による超高強度コンクリートの開発

2. 自己修復機能と自己防錆機能を持つインテリジェントコンクリートの開発

3. ピニロン及び炭素繊維補強モルタル及びコンクリートの性状及び用途開発

4. ポリマーセメントモルタル及びコンクリート中のポリマーとセメントの相互作用

5. 建築材料としての新素材の利用の可能性

6. 遷移帯の改質によるセメント系複合材料の高性能化

7. 廃発泡ポリスチレンを用いたポリマーコンクリート及びモルタルの開発

出 村 克 宣 教授〔論文〕

1. 雨水の再資源化システムの開発

2. ポーラスコンクリートの性能改善策

3. 環境調和型建築材料・工法の開発

4. RC造建築物用補修材料・工法及び劣化診断システムの開発

5. 土壁を中心とした建築材料の評価及び建築生産に関する研究*

6. 建築及び都市のマテリアルデザインに関する調査研究*

*: 5及び6のテーマについては、岩崎教授との共同指導による

渡 澤 正 典 専任講師〔論文〕

1. コンクリート構造物の耐久性向上

2. コンクリート構造物の強度推定

3. 産業廃棄物のコンクリート製品への利用

4. オートクレープ養生コンクリートの品質改善

5. スラッジの有効利用に関する研究

計画・環境系

■建築計画・設計

若 井 正 一 教授〔論文・設計〕

〔論文〕

1. 人体・動作寸法と生活スペースに関する研究
2. 人間の行動特性と安全性・快適性に関する研究
3. 各種建物のインテリアエレメントに関する研究
4. ヒトの五官と感覚刺激に関する人間工学的研究
5. 建築・インテリアの設計方法に関する研究
6. 建築・インテリアの資格職能に関する調査研究
7. その他（新規課題は、相談に応じます）

〔設計〕

1. 意外性のある空間の提案
2. その他（学内外のコンペ課題などを含む）

私たちの生活場面の中には、まだまだ解決すべき多様な問題が隠されています。論文、設計ともに自ら問題意識を持って興味を抱くテーマを組み立てることに なります。

特に、論文は、各テーマともに人間環境系の視点から、住まいやオフィスなどの具体的な場面を研究対象にして調査または実験の両面から問題点を探求するものです。

また、設計は、既成の概念にとらわれないで自らが構想する独創的な機能を持つ提案型の建築的空間等をデザインするものです。学内外のコンペなどにも挑戦することを勧めます。

なお、テーマの内容によっては共同研究を認めます。特に、建築CAD、インテリアデザイン、環境心理学などに興味を持つ、意欲のある卒研究生を歓迎します。

松 井 壽 則 助教授〔論文・設計〕

1. 高齢化社会に対応した住生活環境整備に関する研究
 - 1) 高齢化対応住宅に関する調査研究
 - 2) 高齢社会に対応した住宅施策展開に関する調査研究
 - 3) 身体障害者、高齢者などに配慮した住宅計画に関する調査研究
2. 高齢者に対する福祉サービス提供施設に関する研究
 - 1) 通所型住宅サービス提供施設に関する調査研究
 - 2) 特別養護老人ホームの計画に関する研究
 - 3) グループホーム（ユニットケアを含む）の計画に関する研究
3. 住宅・住宅地に関する調査研究
 - 1) 住宅団地の再生並びに更新に関する調査研究
 - 2) 公営集合住宅の時系列的変遷に関する調査研究
 - 3) 公営集合住宅の外部空間を核とした交流空間に関する調査研究
4. 児童・生徒に対する建築教育の可能性に関する実践研究
5. 保育園・幼稚園の計画に関する研究
6. 特殊学級、養護学校に関する調査研究

7. 上記テーマに関する設計

注意事項：希望者は、2 年次、3 年次設計課題をそれぞれ 1 作品、計 2 作品を持参し、設計の内容についての意見交換をおこない、選考の参考とします。

また、先方の都合により調査を行なうことになるので、講義に追われずに済むよう、できるだけ必要な単位は 3 年次生で修得しておいて下さい。

市 岡 綾 子 専任講師〔論文・設計〕

1. 生活空間における居場所形成に関する研究
2. 学校施設、学習環境に関する研究
3. 子どもの環境行動に関する研究
4. その他

■都市計画・設計

三 浦 金 作 教授〔論文・設計〕

1. 探索歩行時の注視行動に関する研究（日本・外国）

はじめての都市空間で、来街者は何を手掛かりに空間移動をするのか探求する。

 - 1) 都市空間把握について
 - 2) 歩行行動について
 - 3) 注視行動と脳波
 - 4) 認知地図（スケッチ・マップ法）
2. 都市景観の研究（日本・外国）

これからの都市景観はどうあるべきなのか、景観からの都市づくりを模索する。

 - 1) 都市景観のイメージと評価
 - 2) 景観条例とまちづくり
 - 3) 夜間景観について
3. オープン・スペースの研究（日本・外国）

都市のアメニティ施設としてのオープン・スペースのあり方を模索する。

 - 1) 東京都A区のプチ・テラス（スモール・アーバンスペース）
 - 2) 大都市の広場公園
 - 3) 子供の遊び場
 - 4) 都市緑地・公園整備
 - 5) 公開空地
 - 6) 日本のオープン・スペース史
 - 7) アメリカの都市広場
4. 西欧都市の研究

西欧都市の空間構成原理を探求する。現地調査も実施する。

 - 1) 水都・ヴェネツィアの都市空間特性（イタリア）
 - 2) ハンザ都市・リューベックの都市空間特性（ドイツ）
 - 3) イタリア広場空間における人間の滞留行動について
 - 4) 西欧都市史・建築史
5. その他の研究（日本・外国）

上記研究のほかに、興味のある研究テーマがあれば相談して下さい。

 - 1) 商業施設の立地傾向について

- 2) アーバン・ビヘイバー（都市空間での人間行動特性）について
- 3) 歩行者空間（緑道、ショッピングモール、アーケード）の整備
5. 都市デザイン・まちづくり・建築設計
設計・デザイン希望者は、2・3年次の課題図面を持参して作品を説明して下さい。

有賀保二 助教授〔論文・設計〕

1. 地方都市における地区レベルの町づくりの研究
2. 商店街構成に関する調査研究
3. 都市景観に関する研究
4. 地区計画設計

論文・設計とも基礎調査として現況調査、文献調査を行い、現況分析より問題点を抽出、その要因を探究し、その結論を論文又は図面として表現する。

テーマについては、ミーティングの進行状況の中より各自の具体的な研究テーマを決定する。

調査についてはグループで行い、論文、設計とも個人、又はグループでもよいが各自の分担を決め、まとめを行う。

土方吉雄 助教授〔論文・設計〕

1. 都市の土地利用に関する研究
 - 1) 土地利用の更新過程
 - 2) 用途地域制
 - 3) 都市マスタープラン
 - 4) 地方都市中心市街地の再活性
2. 住宅・居住環境整備に関する研究
 - 1) 住宅需給
 - 2) 都心居住
 - 3) 子供の遊び環境
 - 4) 近代化遺産とまちづくり
 - 5) 住宅マスタープラン・HOPE計画

- 6) 市街地整備事業の評価手法
3. 都市設計、まちづくり
設計では、CADに興味のある人を特に希望します。

■建築史

狩野勝重 教授〔論文・設計〕

1. 近世社寺建築の調査と研究
2. 東北地方における棟札調査
3. 文化的資産を活用した環境整備計画
4. 日本的都市のアイデンティティについて
5. 地籍図の語る史的意味合
6. 自立型環境共生集落の形勢プロジェクト
7. その他、町づくりなど

〔設計〕設計については、論文の延長上に位置付ける

■環境工学・建築設備

濱田幸雄 助教授〔論文〕

1. 音響透過損失測定におけるJIS残響室とISO試験室の違いの影響に関する研究
2. 音響透過損失測定における支持条件の影響に関する研究
3. 多層膜構造の吸音特性に関する研究
4. 福島県のサウンドスケープに関する研究
5. 構造体からの音響放射に関する研究

八町雅康 専任講師〔論文〕

1. 燃焼器具と室内空気汚染に関する研究
2. ランドサットデータ利用に関する研究
3. アメダスデータのデータベース化に関する研究
4. ホームページ（設備用教材）の作成の試み
コンピュータ又はプログラム開発に関する希望があれば、相談の上、受入れます。

平成16年度 建築学科卒業研究 受理者一覧

学生番号	氏名	指導教員	学生番号	氏名	指導教員	学生番号	氏名	指導教員
132002	青木 隆	三浦教授	132015	石井 睦子	若井教授	132030	梅原 大嗣	出村教授
132003	青木 寿春	若井教授	132016	石崎 裕和	野内講師	132032	遠藤 健司	濱田助教授
132004	青木 智芳	狩野教授	132017	石附 純	野内講師	132035	大河原宏一	浅里助教授
132005	青木 留美	有賀助教授	132018	泉 祐輔	八町講師	132036	大塚 耕平	濱田助教授
132007	浅野 恒佑	佐藤教授	132019	磯 大將	若井教授	132037	大友 康弘	有賀助教授
132008	阿部 憲介	土方助教授	132021	井上 未知	岩崎教授	132038	大橋 哲	岩崎教授
132009	阿部 真行	若井教授	132022	今井健太郎	八町講師	132040	岡和田直美	濱田助教授
132010	阿部 友一	渡澤講師	132023	岩川 弘和	佐藤教授	132043	落合 真美	出村教授
132011	安藤 祐子	岩崎教授	132024	岩坂 亮典	出村教授	132044	折笠 裕子	有賀助教授
132012	池上 絢子	松井助教授	132025	岩橋 寿幸	三浦教授	132045	加藤 匠	松井助教授
132013	池田 篤信	三浦教授	132027	牛島 裕智	濱田助教授	132046	加藤 浩史	土方助教授
132014	井澤道太郎	渡澤講師	132029	内田 好則	岩崎教授	132047	川上 裕一	出村教授

学生番号	氏名	指導教員	学生番号	氏名	指導教員	学生番号	氏名	指導教員
132048	川口 賢二	千葉助教授	132113	高梨 宏和	岩崎教授	132186	安田 貴夫	大濱教授
132049	川口 大介	松井助教授	132114	高橋 章	濱田助教授	132187	矢野 貴嗣	倉田教授
132050	川村 元気	大濱教授	132115	高橋 祥	渡澤講師	132188	矢野 晴香	若井教授
132051	北川 大輔	出村教授	132116	高橋 和也	佐藤教授	132189	矢吹 まり	若井教授
132052	北野 陽大	倉田教授	132117	高原 大地	浅里助教授	132190	山浦 茜	土方助教授
132053	久能 麻美	濱田助教授	132118	高松 美幸	若井教授	132191	山口 徹	浅里助教授
132054	熊谷 平助	倉田教授	132119	滝沢 学	濱田助教授	132193	山口 博敏	浅里助教授
132055	熊谷 義範	若井教授	132120	竹内 誠治	佐藤教授	132194	山崎 一樹	三浦教授
132057	栗崎 美紀	岩崎教授	132121	武田 雄太	浅里助教授	132195	山崎 大輔	大濱教授
132058	黒川 鮎美	千葉助教授	132123	田邊 誠	土方助教授	132196	山下 真一	浅里助教授
132059	黒田 隆	黒田教授	132125	田村 陽子	岩崎教授	132197	山下 満紀	千葉助教授
132060	桑田 陽平	黒田教授	132126	田湯 誠章	浅里助教授	132199	遊佐 洋介	出村教授
132061	古家 論	出村教授	132129	津久井 勲	大濱教授	132200	横山 泰彦	大濱教授
132063	国分 友貴	大濱教授	132130	辻村 一	大濱教授	132201	吉岡康七郎	佐藤教授
132064	小針 裕	パリーク講師	132131	角田有実子	岩崎教授	132202	吉田 明子	岩崎教授
132065	小松崎真司	有賀助教授	132133	東城 雅史	有賀助教授	132203	吉田 篤司	大濱教授
132066	小山 元輝	佐藤教授	132134	仲井 康真	八町講師	132204	吉田 英俊	千葉助教授
132067	今田 大介	土方助教授	132136	中村 貴之	浅里助教授	132207	渡辺志津恵	渡澤講師
132068	斎藤圭一郎	出村教授	132138	成田 公史	八町講師	132208	渡辺 直昌	渡澤講師
132070	齋藤 優	佐藤教授	132140	根本 重臣	渡澤講師	132209	渡邊恵理子	若井教授
132071	坂本 大輔	渡澤講師	132142	根本 賢	若井教授	132210	渡邊 郁美	岩崎教授
132072	坂本 英之	濱田助教授	132144	野澤 大輔	大濱教授	132213	綿引 真人	千葉助教授
132074	佐藤 彰洋	土方助教授	132146	橋本 和宏	土方助教授	132214	和田倉 知	岩崎教授
132075	佐藤 長弥	渡澤講師	132147	橋本 康平	八町講師	132215	鰐渕 隼理	濱田助教授
132076	佐藤 和徳	佐藤教授	132148	橋本 紘史	土方助教授	132551	清家 瞳	岩崎教授
132077	佐藤 真亮	千葉助教授	132149	橋本 昌大	濱田助教授	132601	高橋 亮多	狩野教授
132079	佐藤 暢裕	倉田教授	132150	八田 直樹	佐藤教授	132701	阿部 貴紘	松井助教授
132081	佐藤 良恵	土方助教授	132151	服部亜矢子	岩崎教授			
132082	佐藤 喜幸	有賀助教授	132152	林 政寛	佐藤教授	122021	井上 純	若井教授
132084	佐野 裕子	岩崎教授	132153	原田 裕之	狩野教授	122071	木村 泰	倉田教授
132085	佐原 有美	有賀助教授	132154	平山 真悟	佐藤教授	122074	清田 剛	八町講師
132086	澤田 佑太	有賀助教授	132155	広瀬 透	狩野教授	122083	木幡 香織	濱田助教授
132087	塩田優美子	若井教授	132156	福田 尚之	岩崎教授	122091	佐々木一人	出村教授
132088	塩塚淳之輔	有賀助教授	132157	古川 孝之	倉田教授	122106	清水 舞	若井教授
132089	四角 拓次	有賀助教授	132158	別所 知彦	松井助教授	122125	関沢裕一郎	千葉助教授
132090	篠崎 賢司	倉田教授	132159	星野 晴香	若井教授	122136	瀧田 智彦	千葉助教授
132092	白岩 竜一	有賀助教授	132161	本田 幸栄	土方助教授	122151	常田健太郎	出村教授
132093	菅原 郁恵	土方助教授	132162	本田 智則	野内講師	122156	中 政一郎	岩崎教授
132094	杉ノ目佳祐	野内講師	132163	本田 光	浅里助教授	122161	中島 崇	渡澤講師
132095	杉本 昇平	土方助教授	132164	本田由紀子	若井教授	122190	藤井 健太	浅里助教授
132096	鈴木 綾香	倉田教授	132165	本間 一真	濱田助教授	122200	前田 伴子	渡澤講師
132097	鈴木さとみ	三浦教授	132169	町谷敬太郎	土方助教授	122203	益田 聖士	倉田教授
132098	鈴木 駿吾	若井教授	132170	松下 恵子	三浦教授	122204	増田 八大	渡澤講師
132099	鈴木 純一	大濱教授	132173	美尾えり子	若井教授	122247	渡邊 亮一	黒田教授
132100	鈴木美奈生	土方助教授	132174	水野 幹子	有賀助教授			
132101	鈴木 裕介	パリーク講師	132175	三谷 宏幸	三浦教授	112088	坂本 章裕	浅里助教授
132102	鈴木 佳美	有賀助教授	132176	三森 裕史	濱田助教授	112512	鈴木 裕	倉田教授
132103	須田 里子	佐藤教授	132177	緑川 弘訓	出村教授	112701	鈴木 貴智	岩崎教授
132104	須藤 丈裕	濱田助教授	132179	宮林 大輔	有賀助教授	092023	鈴 智之	出村教授
132108	関澤 聡央	渡澤講師	132180	村形 悠	佐藤教授	*****		
132109	関根めぐみ	松井助教授	132182	村澤 由賀	土方助教授	後記：卒業研究の詳細については、		
132110	平 奈穂美	佐藤教授	132183	森 勝貴	渡澤講師	本誌のテーマ一覧などを参照して、		
132112	高崎 史成	濱田助教授	132184	森本 理	千葉助教授	卒研の指導教員に尋ねて下さい。		

韓国の国立全北大学校に滞在して

教授 大濱 嘉彦

筆者は、平成15年12月28日から平成16年4月25日まで、韓国の全州市にある国立全北大学校（Chonbuk National University）工科大学建築・都市工学部の建築材料学講座（担当、蘇 暘燮教授）に、韓国科学工学財団（K S E F）招へいの客員教授として滞在した。筆者の招へいに当たっては、共同研究テーマ「鉄筋コンクリート造建築物のコンクリート・ポリマー複合体による長寿命化」が設定されていた。このテーマに沿って、学部生への講義、大学院生の研究及びテクニカル・ライティングの指導、全国規模の講演会の開催、施工現場や工場の見学なども含めて産学共同研究に対する助言、日本大学工学研究科からの学位取得者5名（筆者の研究室出身）の訪問など、学術交流を積極的に行った。

筆者と蘇 暘燮教授とは、過去15年以上に渡り、毎年、両研究室間の学術交流を実施してきた旧知の仲であること、同教授の研究室出身者である趙 栄国、金 完基及び崔 洛運の三氏が筆者の研究室に在籍し、博士の学位を取得されたこともあって、約4箇月間、他国の大学に在籍していると感じさせない雰囲気の中での滞在であった。

次に、韓国に滞在中、学術交流を通じて感じた印象や遭遇したエピソードを幾つかのパラグラフとして述べることにしたい。

韓国の大学の新学期は、日本よりも1箇月早く3月に始まるが、筆者は、「茶髪」の新入生が例年よりも多い印象を受けた。これは、今年か

ら日本文化の情報が全面解禁になった影響であるかもしれないという噂があった。

学部生に、日本の大学の建築関係学科における平均的な授業内容を紹介した時、日本の有名な建築家として安藤忠雄氏の名前を挙げて、彼の打放しコンクリートを用いた建築物の耐久性に問題はないかという質問を受け、大変興味深かった。

博士学位取得後の奨学生（post-doctoral fellow）及び大学院生は、教授のteaching assistantとして学部の講義科目の授業を行うと共に、大型研究プロジェクトの申請から実施、報告書の作成まで、精力的に熟しており、彼らの真摯な研究態度には驚かされた。旧正月の時も、多くの研究室の明かりが消えることはなかった。

韓国の大学では、教授、助教授などの教員はもとより、博士学位取得後の奨学生と大学院生に至るまで、政府の方針として、「ISI Essential Science Indicator」による引用度の高い学術雑誌に、質の高い論文を多く書くことが要求されている。その結果は、教員の昇進や大型プロジェクトの責任者への登用に大きな影響を及ぼすとのことであった。

韓国国民の一大関心事として、3月に盧 武鉉大統領の弾劾と4月に国会議員の総選挙があった。この時、学生たちは、政治に大きな関心を持ち、「我々が政治の流れを変えて見せる」という意気込みで、自分の意見を堂々と述べる様子には驚かされた。筆者は、そこに、直接民主主義の現

実を見た気がした。

多くの韓国人との付き合いの中で、又、テレビを見てもよく感じたことは、韓国人と日本人の思考の過程がほとんど同じであるということである。ずっと遠い昔は、韓国人と日本人は同じ民族ではなかったかと考えたほどであった。本音で話をすると、韓国人の教授や学生たちも、同じことを認めていた。しかし、韓国人が率直にそういわないのは、日本による植民地支配という韓国人の誇りを傷つけた歴史的事実があるからではなかろうか。

帰国して間もなく、5月1日付の朝日新聞に、駐日韓国大使 羅 鍾一氏による「韓日文化交流一東アジア共同体の契機に」と題する一文があった。この中で、同氏は、「韓国テレビドラマ（冬のソナタ）への日本人の共感やサッカーのワールドカップ韓日共催の成功は、両国間の長い交流を通じ、価値や情緒、美的感覚を共有した結果、「文化的成就」として表されたものである」、又、「日本に赴任後、1箇月間、日本の至る所に韓国の一部を発見した」（「」の中には、同氏の文章の要約）と述べておられた。駐日韓国大使のこのような視点は、筆者が約4箇月間、韓国に滞在中の印象や体験と同一線上にあるものと確信している。今後、日本と韓国は、学術交流などを通じて、文化的共感と価値観共有の枠を広げながら、歴史的事実を忘れずに、両国関係がより望ましい方向に進展することを期待したい。



全北大学校工科大学の玄関



送別会において蘇 暘燮 教授とそのスタッフと共に



板門店の軍事停戦委員会会議室（南北対話の場）内において、国連軍兵士と共に（兵士は、38度線の軍事境界線上に、筆者は北朝鮮側に立つ。生命の安全を保証されないという宣言書にサインして国連軍のバスで板門店に向った。）

新任の先生

非常勤講師 中尾 実

担当科目：大学院・空間デザイン学特論
学 部・建築設計演習



81年に本学部を卒業し、丹下健三・都市建築設計研究所で4年、アーキテクトファイブで16年間勤務し昨年独立しました。一般的に独立するには遅い年齢となりますが、長年設計事務所勤務をした事で、横浜美術館、広島国際平和文化会館、シンガポールインドアスタジアム、LINK、三戸町役場、桜美林学園淵野辺キャンパス、モエレ沼公園等その他多くのプロジェクトに携わる事が出来ました。中でも最後に担当したIRONY SPACE（新建築03年5月号掲載）は、新鮮味の少ない今日の建築界において、多くの人に見て頂きたいと思える建築が出来たと自負しており、独立の良い契機になりました。さらにモヘンジョダロを含めた都市、建築、遺跡視察の為に海外旅行も12回ほど重ねて来ました。01年9月11日には、成田からニューヨークに向かう飛行機搭乗中に同時多発テロが起こり、急遽バンクバーに下ろされると言うショッキングな出来事にも遭遇しました。現在、川崎市多摩区で事務所を構え、私自身の設計活動としては正にこれからですが、それと同時に、私の故郷でもある郡山の母校で指導する機会を得られた事は、喜びと同時に意義深い事と感じております。先の見えない社会情勢が続いていますが、一方でラディカルという言葉聞く事が無くなり、急速に成熟してきたかと思える高度情報化社会の現代においては、何が建築を決定していくのか？ 建築を取り巻くコンテキストについて、学生と議論していきたいと考えております。

■大濱教授は、昨年12月28日から4月25日まで約4ヶ月間、韓国の国立全北大学校工科大学に客員教授として招かれ、講義、産学共同研究に対する助言など、韓国における建築材料の発展に寄与され帰国された。

■若井教授は、日本建築学会より建築計画本委員会委員を委嘱された。（4月1日から任期2年間）

■大濱教授は、4月2日から3日まで、ドイツのライプツヒのライプツヒ大学で開催されたRILEM Technical Committee-TDP “Application of Titanium Dioxide Photo catalysis to Construction Materials” のミーティングに委員長として、また、Technical Committee-ECM “Environment-Conscious Construction Materials and Systems” のミーティングに委員として出席された。

■若井教授は、郡山地域テクノポリス推進機構より公募型ユニバーサルデザイン製品開発支援選定評価委員会委員長を委嘱された。（4月2日）

■土方助教授は、4月21日、郡山市より郡山市総合計画審議会委員を委嘱された。

■土方助教授は、5月22日、郡山市より郡山市開発審査会委員を委嘱され、会長に選出された。

■5月29日に仙台メディアテークにおいて、日本建築学会東北支部主催シンポジウム「親と子で考える建築・まち、親と子の建築講座の歩みと今後の展開」が開催され、倉田教授がパネリストとして「親と子の建築講座の歩み」と題して講演された。

■大濱教授は、5月31日、スロベニアのリュブリアナで開催の11th Slovenian Colloquium of Concrete, “Gradnjaz Betoni Visokih Zmogljivosti” において、“Recent

教室ニュース

Progress in Research and Development Activities of Polymer-Modified Mortar and Concrete in Japan”と題して基調講演をされた。

■大濱教授は、6月1日から4日まで、ドイツのミュンヘンで開催の11th International Congress on Polymers in Concrete (ICPIC) において、ICPIC理事会に出席すると同時に、“Recent Progress in Research and Development Activities of Concrete-Polymer Composites in Japan”と題して基調講演を、また、“Standardization

トピック

ブラジルからの留学生



刈田なおみ
カロリナ

本年4月1日より、ブラジルから福島県費留学生として、刈田なおみカロリナさんが、1年間の予定で本学科に在籍しています。（所属：若井研究室）本人は、日系三世で、ブラジルのサンパウロにあるマッケンジー大学建築学部を卒業しています。日本の建築文化やデザインなどについて勉強しています。

一言メッセージ：

「Do Brazil, boa tarde !

Obrigado,」

（ブラジルからこんにちは！

ありがとう）

of Test Methods and Quality Requirements for Concrete-Polymer Composites in Japan”と題して一般講演をされた。

■若井教授は、日本建築学会の建築雑誌6月号に「東北建築賞（作品）」の審査委員長として作品講評を執筆し、活動レポートに掲載された。

■郡山地域テクノポリス推進機構等の主催によるハンズフリー型モバイル機器デザイン・コンペにおいて、時崎院生が最優秀賞を、十文字院生が優秀賞を受賞した。（6月1日）

■土方助教授は、6月4日、郡山市より郡山市景観づくり審議会委員を委嘱され、会長に選出された。

■若井教授は、全国公立高等学校事務職員協会東北支部研究大会において「身体尺度論」と題して基調講演を行った。（6月9日、福島市）

■土方助教授は、6月29日、塙町商工会より塙町TMO構想検討委員会の指導講師を依頼された。

■人事：4月1日付けで、三浦助教が教授に、市岡助手が専任講師に昇格された。また、非常勤講師として中村光彦氏、中尾実氏（本誌頁に記事掲載）が赴任された。

*****後記：中村光彦氏のプロフィールと学術論文等は、次号に掲載予定。

建築学教室教職員名簿

平成16年4月1日現在

■専任教員

教授	工博	岩大	崎濱	博彦	建築マテリアルデザイン	9号館	1階	024 (956-8736)
教授	工博	狩倉	野田	嘉勝	建築化学	9号館	3階	(956-8739)
教授	工博	黒田	藤村	光浩	建築史	9号館	3階	(956-8749)
教授	工博	佐出	井里	克金	力学	16号館	2階	(956-8732)
教授	工博	三若	賀葉	春司	構造	16号館	1階	(956-8735)
教授	工博	浅有	田方	平宣	計画	16号館	2階	(956-8744)
教授	工博	千濱	井里	作一	建築材料工学	9号館	3階	(956-8740)
教授	工博	土田	賀葉	茂二	都市計画	45号館	2階	(956-8753)
教授	工博	松野	内町	裕雄	建築人間工学・インテリア	45号館	3階	(956-8750)
教授	工博	八木	野内	則子	構造計画	16号館	2階	(956-8734)
教授	工博	S. N. パリー	澤正	治康	都市計画	9号館	3階	(956-8743)
教授	工博	渡	勝正	典	環境工学	16号館	3階	(956-8733)
教授	工博		鷹彰	生男	都市計画	16号館	3階	(956-8752)
教授	工博		福島	勝典	都市計画	45号館	3階	(956-8742)
教授	工博		神近	哲夫	環境計画	45号館	3階	(956-8751)
教授	工博		小滝	三	環境計画	16号館	2階	(956-8746)
教授	工博		中川	一彦	建築設計	16号館	2階	(956-8732)
教授	工博		長谷川	美雄	建築設計	16号館	3階	(956-8741)
教授	工博		古松	文夫	建築設計	16号館	1階	(956-8747)
教授	工博		湯本	伯	建築設計	9号館	1階	(956-8731)

■大学院兼任・非常勤講師

兼任教授	工博	小高	嶋勝	衛志	地域計画	45号館	2階	(956-8753)
兼任教授	工博	根橋	鷹彰	生男	地域計画	45号館	3階	(956-8750)
兼任教授	工博	福島	勝典	生男	地域計画	45号館	2階	(956-8753)
兼任教授	工博	神近	哲夫	三	建築構造工学特論Ⅱ	16号館	2階	(956-8732)
非常勤講師	工博	小滝	三	三	応用数学特論	16号館	2階	(956-8732)
非常勤講師	工博	中川	一彦	三	空間デザイン学特論	45号館	3階	(956-8750)
非常勤講師	工博	長谷川	美雄	三	建築計画学特論Ⅲ	45号館	2階	(956-8751)
非常勤講師	工博	古松	文夫	三	空間デザイン学特論	45号館	3階	(956-8750)
非常勤講師	工博	湯本	伯	三	建築意匠特論	9号館	1階	(956-8736)
非常勤講師	工博			三	空間デザイン学特論	45号館	3階	(956-8750)
非常勤講師	工博			三	空間デザイン学特論	45号館	3階	(956-8750)
非常勤講師	工博			三	環境情報統計学特論	45号館	3階	(956-8750)
非常勤講師	工博			三	環境情報統計学特論	45号館	3階	(956-8750)

■学部兼任・非常勤講師

非常勤講師	工博	阿部	直人	人徹	建築設計	45号館	3階	(956-8742)
非常勤講師	工博	五十嵐	治男	誠男	建築倫理	45号館	2階	(956-8751)
非常勤講師	工博	小原	道宏	男一	建築人問工学	16号館	3階	(956-8730)
非常勤講師	工博	近藤	宏昭	夫史	建築設計	45号館	3階	(956-8750)
非常勤講師	工博	佐久間	藤篤	彦夫	建築設計	45号館	2階	(956-8742)
非常勤講師	工博	佐藤	勝公	隆吉	建築設計	45号館	2階	(956-8751)
非常勤講師	工博	澤清	外山	中隆	建築設計	16号館	2階	(956-8744)
非常勤講師	工博	田中	尾村	本郷	鉄筋コンクリート構造	16号館	1階	(956-8747)
非常勤講師	工博	中橋	本郷	精仁	建築設計	45号館	2階	(956-8751)
非常勤講師	工博	二原	澤田	一延	建築設計	45号館	2階	(956-8751)
非常勤講師	工博	藤辺	見谷	美津男	建築設計	16号館	3階	(956-8730)
非常勤講師	工博	水野	矢野	代嘉	建築設計	9号館	3階	(956-8749)
非常勤講師	工博	柳陽	田部	秀和	建築設計	16号館	2階	(956-8732)
非常勤講師	工博	渡			建築設計	16号館	2階	(956-8740)

■事務職員

教室事務	小林 まゆみ	(建築学科センター)	16号館	3階	(956-8730)
------	--------	------------	------	----	------------